

2020年度

自己点検・評価

ホツマ インターナショナル スクール 名古屋校

実 施 日 : 2021年 7月 21日

実 施 責 任 者 : 校長 白木 寛和

実 施 担 当 者 : 白木 寛和、西川 勸、棚町 拓、木村 彩佳

※ 各点検・評価項目は中項目、更には小項目に分け、各項目ごとに次のように評価を分類して、本資料においては小項目ごとの評価は中項目にまとめて示した。

- A 達成されている。
- B ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる。
- C 達成に向けて努力している。
- D 達成されていない／必要性に気づいていなかった。
- X 該当しない。

第1 設置者及びマネジメント

1 理念・教育目標

1-1 理念と教育目標

評価点	1-1-1	<理念> 本校の教育は、単に日本語を教えるのではなく、学生が日本語を学びながら社会に貢献する人材として育つように導くことであり、日本の伝統文化に根差して、生のふれあいを大切にした親身な教育活動の実践をモットーとする。
	1-1-2	<教育目標> 一定の日本語能力を身につけさせると共に、日本の社会で通じる礼儀等の基本的振舞いの習得と協調性を自発的に養いえる素地を形成させる。そして、将来的に社会の発展に寄与し得るように、日本の高等教育機関への進学を個々の学生の当面の目標として掲げるものとする。
	1-1-3	理念と教育目標が教職員、学生に周知されている。

1. 理念・教育目標

総合評価 **B-**

理念や教育目標については、達成に向けて日々努力しているが、特に周知の如何に関しては十分に実践できているとは言い難く、改善していく必要がある。
登下校時の挨拶、遅刻者や忘れ物をした学生への指導など、日本社会で生きていく上での必要な礼儀や作法も重視している。単なる文言のみの理念や目標に留まらず、指導を実践している。

2 組織

2-1 組織態勢

2-1-1	設置者、設置代表者及び経営担当役員は、「日本語教育機関の告示基準」で定められた要件に適合している。
2-1-2	事業規模に応じた組織態勢になっている。
2-1-3	受け入れようとする学生の言語への対応策が講じられている。

2-1 組織態勢

評価 **B+**

2-2 教員組織

2-2-1	校長、主任教員及び教員は、「日本語教育機関の告示基準」で定める要件を備えている。
2-2-2	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められている。
2-2-3	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質が明示されている。

2-2 教員組織

評価 **B**

2-3 事務組織

- 2-3-1 生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限が明確に定められている。担当者が複数名の場合は、責任者が特定され、それぞれの責任と権限が明確化されている。
- 2-3-2 生活指導責任者及び入管事務担当者が学生及び教職員に周知されている。
- 2-3-3 入国管理局により認められた申請等取次者を配置している。

2-3 事務組織

評価 **B**

2-4 採用と育成

- 2-4-1 教員及び職員の採用方法及び雇用条件が明文化されている。
- 2-4-2 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組をしている。
- 2-4-3 教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っている。
- 2-4-4 教員及び職員の評価を適切に行っている。

2-4 採用と育成

評価 **B-**

2. 組織

総合評価 **B**

各専任教職員の職務内容及び責任・権限が明確に定められておらず、対処が必要な問題の内容に応じてその都度変わることが多いのが現状。職務内容、教育目標等に応じた理解、育成をして、改善していくことが望まれる。職員のコンプライアンスの意識を醸成する特別な手立てはできていない。職員の評価に関しても基準が明確にされてこなかったが、今後、研修に組み込むべきものを組み込み、職員の評価基準の明確化を目指したい。授業担当教員へのフィードバックは十分な機会と時間を設け適切にされている。

3 財務

3-1 財務状況

- 3-1 財務状況は、中長期的に安定している。
- 3-2 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。

3. 財務

総合評価 **C+**

財務状況に関しては一般社員に公開されていない。
海外からの入国制限がかかっている現状を考えると、財務に関しては安定している。

4 教育環境

4-1 校地、校舎

- 4-1-1 教育機関として適切な位置環境にある。
- 4-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎が整備されている。
- 4-1-3 校舎面積は、「日本語教育機関の告示基準」に適合している。

4-1 校地、校舎

評価 **A**

4-2 施設、設備

- 4-2-1 教室、その他の施設は、「日本語教育機関の告示基準」に適合している。
- 4-2-2 教室内は、十分な照度があり、換気がなされている。
- 4-2-3 すべての教室は、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。
- 4-2-4 授業時間外に自習できる部屋が確保されている。
- 4-2-5 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である。
- 4-2-6 視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器が整備されている。
- 4-2-7 教員及び職員の執務に必要なスペースが確保されている。
- 4-2-8 同時に授業を受ける学生数に応じたトイレが設置されている。
- 4-2-9 法令上必要な設備等が備えられている。
- 4-2-10 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。

4-2 施設、設備

評価 **B+**

4. 教育環境

総合評価 **A-**

校舎の建物に問題はない。細かい部分の不整備はあるが概ね良好。現状に満足せずさらなる改善を試みたい。教室に関してはきちんと整備されているが、その他自習室や図書館などは機能していないので今後改善する必要がある。

5 安全・危機管理

5-1 健康・衛生

- 5-1-1 健康、衛生面について指導する態勢を整えている。
- 5-1-2 対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて、傷害保険にも加入している。
- 5-1-3 重篤な疾病や傷害のあった場合の対応を定めている。
- 5-1-4 感染症発生時の措置を定めている。

5-1 健康・衛生

評価 **B**

5-2 危機管理

- 5-2-1 危機管理態勢が整備されている。
- 5-2-2 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定めている。
- 5-2-3 気象警報が発令された場合の措置を定めている。
- 5-2-4 災害等に対する避難訓練を定期的実施している。
- 5-2-5 防災用品が備蓄されている。

5-2 危機管理

評価 **C+**

5. 安全・危機管理

総合評価 **B-**

重篤な疾病や障害のあった場合の対応に関して、定められているかも知れないが、明確に共有がされていない。感染症発生時の措置も同様。事例別にある程度マニュアル化をして共有するようにしていくことが望まれる。

6 法令の遵守等

6-1 法令の遵守

- 6-1-1 法令遵守に関する担当者を特定している。
- 6-1-2 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。
- 6-1-3 個人情報保護のための対策がとられている。
- 6-1-4 入国管理局、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。

6. 法令の遵守

総合評価 **B-**

個人情報保護の対策が不十分。共有すべき情報と守られるべき個人情報との明確な境界線がない、あるいは共通認識となっていない。これらのことに関して細かい規則がないもしくは、全職員間で共有されているわけではない→改善の必要あり
入国管理局、関係官庁への報告等は遅れることはあっても、欠かさないようにしている。
ただし、法令の遵守についての意識が根付いているとは言えず、今後の改善が望まれる。

第2 運営に関する事項

7 運営全般

7-1 組織的な運営

- 7-1-1 短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。
- 7-1-2 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされている。
- 7-1-3 意志決定が組織的になされ、かつ、効率的に機能している。
- 7-1-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である。
- 7-1-5 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。

7-1 組織的な運営

評価 **C**

7-2 納付金

- 7-2-1 入学検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付時期が明示されている。
2021
年 7
- 7-2-2 学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。
- 7-2-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。

7-2 納付金

評価 **A**

7-3 情報の共有化及び発信

- 7-3-1 外部からの情報提供が効率的になされ、かつ、共有化する仕組みがある。
- 7-3-2 内部からの情報発信が効率的に行われている。
- 7-3-3 入学希望者・学習者及びその利害関係者（経費支弁者等）の理解できる言語で直接乃至は間接的に情報提供を行っている。

7-3 情報の共有化及び発信

評価 **B-**

7. 運営全般

総合評価 **B-**

ICTを駆使した情報共有は授業のみならず事務・教務においても効率的にされている。
組織的な運営が効率的に機能しているとは言い難い。納付金に関しては概ね明示されている。
現在情報提供の言語には基本的に日本語と英語を使用。中にはその二言語では理解できない人々がいる可能性はあり。

8 学生募集

8-1 募集方針

- 8-1-1 理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定している。
- 8-1-2 募集定員を定めている。
- 8-1-3 機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。

8-1 募集方針

評価

B+

8-2 募集活動

- 8-2-1 教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語で開示されている。
- 8-2-2 求める学生像を明示している。
- 8-2-3 応募資格及び条件を入学希望者の理解できる言語で明示している。
- 8-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を遵守した募集活動を行っている。
- 8-2-5 海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行っている。
- 8-2-6 海外の募集代理人（エージェント等）の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。

8-2 募集活動

評価

B+

8-3 入学選考

- 8-3-1 入学選考基準及び方法が明確化されている。
- 8-3-2 学生情報を正確に把握し、及び提出書類により確認を行っている。
- 8-3-3 入学選考を行う態勢が整備されている。
- 8-3-4 受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。

8-3 入学選考

評価

B+

8. 学生募集

総合評価 B+

点検項目の通り行われている。
現在はすでにやり取りのあるエージェントに学生の募集をかければ学生が集まる状況だが、今後は新規のエージェントなどにも積極的に募集をかけていく必要が出てくる。
これらの内容は現地のエージェントと協力して行っている。（とくに言語の部分に関しては適切な募集活動を行なっている。
入学選考基準に関しては職員が面接を実施しているが、職員間全員統一した基準があるわけではなく担当した職員に任されている部分がある。
選考基準に関しては不明瞭な部分もある。今後改善が検討されたい。

9 教育活動

9-1 企画

- 9-1-1 理念・教育目標に合致したコース設定が行われている。
- 9-1-2 教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされている。
- 9-1-3 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。
- 9-1-4 カリキュラムは、体系的に編成されている。
- 9-1-5 教育目標に合致した教材が選定されている。
- 9-1-6 補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。
- 9-1-7 授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提供している。
- 9-1-8 教員配置が適切になされている。

9-1 企画

評価

B

9-2 実施

- 9-2-1 授業開始までに学生の能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。
- 9-2-2 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。
- 9-2-3 開示されたシラバスによって授業が行われている。
- 9-2-4 修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されている。
- 9-2-5 教育内容に応じて教育用機器を活用している。
- 9-2-6 授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。
- 9-2-7 理解度・到達度の確認が実施期間中に適切に行われている。
- 9-2-8 学生の自己評価を把握している。

- 9-2-9 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援が行われている。
- 9-2-10 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。
- 9-2-11 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。
- 9-2-12 学習内容、時間割と学年暦、成績判定の基準と方法、学習上の留意点、留学生活上の留意点、入管法上の留意点とこれらについての相談担当者名が記載された文書を、入学時に学生に配布している。

9-2 実施

評価

B

9-3

成績判定

- 9-3-1 判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されている。
- 9-3-2 成績判定結果を的確に学生に伝えている。
- 9-3-3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。

9-3 成績判定

評価

B

9-4

授業評価

- 9-4-1 授業評価を定期的実施している。
- 9-4-2 評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。
- 9-4-3 学生による授業評価を定期的実施している。
- 9-4-4 評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。

9-4 授業評価

評価

B

9. 教育活動

総合評価

B

教育課程の変更に伴い現行カリキュラムとの齟齬が見られることもあったものの、大きく憂慮するものではない。日々改善していく必要はあると思うが、現状特に問題はない。クラスの中でも学力の差が出ているのでどう差をなくしていくかが課題。学生の自己評価を把握する機会がないので要検討。授業後の個別学習指導による学習支援は十分に時間を費やし行っている。「特定の支援を必要とする学習者」に関しては該当者がいない。学生からの相談、苦情等は教職員全員で十分に聴き取りをし、対処している。授業評価をもっと積極的に行い、授業が改善していけたらいい。主任教員が十分な機会と時間をとり授業見学し、具体的・実践的なフィードバックもかなりの量されている。学生による授業評価の機会が少ない。今後の課題。

10 学生支援

10-1 支援態勢

10-1-1 学生支援計画を策定し、支援態勢が整備されている。

10-1-2 休日及び長期休暇中の学生対応ができています。

10-1 支援態勢

評価 **B**

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

10-2-1 入学直後のオリエンテーションを実施している。

10-2-2 生活に関するオリエンテーションを実施している。

10-2-3 地域交流や地域活動の機会への参加を積極的に促している。

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

評価 **A-**

10-3 生活面における支援

10-3-1 住居支援を行っている。

10-3-2 アルバイトに関する指導及び支援を行っている。

10-3-3 交通事故等の相談態勢が整備されている。

10-3-4 定期的に健康診断を実施している。

10-3-5 学生全体の生活状況について定期的に調査している。

10-3 生活面における支援

評価 **A-**

10-4 進路に関する支援

10-4-1 進路指導担当者が特定されている。

10-4-2 学生の希望する進路を把握している。

10-4-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。

10-4-4 入学時からの一貫した進路指導を行っている。

10-4 進路に関する支援

B+

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

10-5-1 担当者は、研修受講等により適切な情報取得を継続的に行っている。

10-5-2 入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。

10-5-3 在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。

10-5-4 在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。

10-5-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている。

10-5-6 過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていない。

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

B+

10. 学生支援

総合評価 B+

休暇に入る前にはオリエンテーションを行い、諸々の説明や情報共有、確認を行っている。休暇中も連絡を取るようになっている。面談は積極的に行っていると思うが、支援計画を策定するところまではいっていない。週1回の地域清掃はとていい取り組みだと考える。各オリエンテーションは適切に行われている。毎週の地域清掃などの地域活動や日本人大学生との交流イベントなども積極的に行っている。ほとんどの学生が賃貸契約の寮に住んでおり、ほぼ毎日寮回りをして生活状況や生活習慣などのチェック及び指導を行っている。資料はあるが、自由に閲覧できる状況にはないので改善する必要あり。学生の希望進路等は定期的な個人面談によって聴取している。ただし職員間でその情報の共有が適切に行われていない部分もあり、改善が検討されたい。問題のある学生は徹底した個別指導により厳しく対処している。

11 教育成果

11-1 成果の判定

11-1-1 進級及び卒業判定が適切に行われている。

11-1-2 日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。

11-1 成果の判定

A

11-2 卒業生の状況の把握

11-2-1 卒業生の状況を把握するための取組を行っている。

11-2-2 卒業後の進路を把握している。

11-2-3 進学先、就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握に努めている。

11-2 卒業生の状況の把握

A-

11. 教育成果

総合評価 A-

卒業試験を欠席した者については修了とするなど厳正な処分を下している。外部試験の結果については漏れなく合格証の写しを保管している。
進学先、就職先の方、本人から卒業後の状況を聞くことがあるがこちらから社会的評価を把握するところまでは至っていないと考える。
卒業生の状況は把握できているが取り立てて専用の取組として行っているわけではない。
進路に関しては入管報告との兼ね合いもあり、予定と実際の齟齬がないかどうか追跡し、確認することとしている。